

近現代美術に関する総合的研究 (①美02-07-2/5)

目 的

多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第1にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第2に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

1. 未公開資料の収集整理とデータ化にむけた調査研究

本年度は、下記の4件の調査研究を行った。第1に、黒田宛フランス語書簡の再調査を行い、特に封筒等の情報を加味して、差出人、差出日時等の調査をすすめた。第2に2006(平成18)年2月に黒田清輝夫人である黒田照子の御遺族である金子家から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料をデータ化し保存公開した。同時に2007(平成19)年10月に同氏より写真等の資料105件の追加寄贈があり、これの整理と調査をすすめた。第3に、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料のうち、作家別資料のデータ化をすすめた。第4に、2008(平成20)年3月3日から8日まで、海外の文化財アーカイブ調査のためウィット・ライブラリー(ロンドン)等において調査し、担当者との協議を行った。

2. 資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

本年度は、研究論文集『昭和期美術展覧会の研究』(仮称、平成20年度刊行)のために、他機関の研究者とともに研究協議会を重ね、また中間報告として研究会を開催することを目的とする。また、近現代美術に関する個々のテーマに基づいた研究成果を積極的に公開することを目的とする。

成 果

上記の第1項にあげた研究については、第1にあげた黒田宛フランス語書簡については、翻刻と和訳作業をすすめることができた。第2に黒田清輝関係写真等208件を整理し、黒田記念館において特集陳列「写された黒田清輝」を開催し、あわせて追加資料のデータ目録化をすすめた。第3に、作家別資料についてはファイリング作業を継続し、あわせて保存公開のための基礎データ4,071件を入力することができた。

つぎに第2項にあげた研究については、前年度につづき2007(平成19)年5月17日に当研究所において下記の研究者の参加を仰ぎ、報告書の内容構成、執筆者の検討を行うための研究協議会を開催することができた。大谷省吾(東京国立近代美術館)、河田明久(早稲田大学)、田中修二(大分大学)、藤井素彦(高岡市美術館)、森登(中央公論美術出版)、柴田卓(キュリオ・エディターズ・スタジオ)

また本研究協議会の後に国内諸機関の研究者28名に執筆依頼した。また、2007年12月27日に、当研究所において、研究会を開催した。発表者、及び発表題名は下記のとおりである。

喜多孝臣(早稲田大学會津八一記念博物館)「矢部友衛とプロレタリア美術運動—プロレタリア美術研究所を中心に—」

足立 元(東京藝術大学大学院)「『悪女』と戦争—小野佐世男の漫画をめぐる—」

敷田弘子(東京藝術大学大学美術館)「昭和前期の日本における最小限住宅とその室内設備についての—考察—型而工房とその関係者のデザイン活動から」

論文等掲載数 3件

- ・山梨絵美子「日本近代絵画にみる農耕主題とその背景」『田園讃歌』展図録 埼玉県立近代美術館等 pp.144-149 07.10(他2件)

研究組織

○田中淳、塩谷純、山梨絵美子(以上、企画情報部)、青木茂(客員研究員)